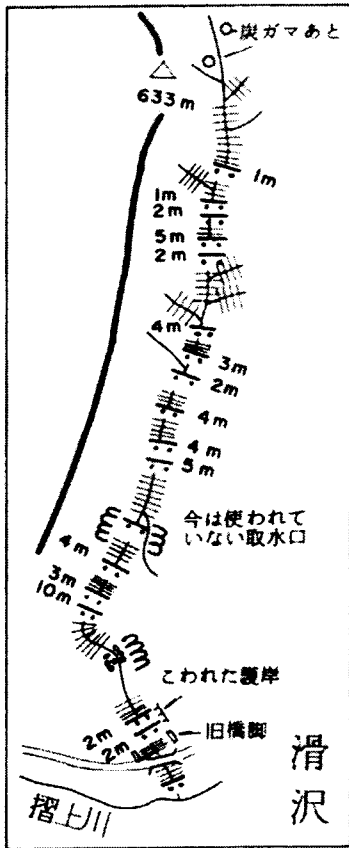


# 滑沢

一九八三年五月二八日

名号橋より遡行開始。小さな沢だが、名の示す通りナメがずっと続いている。まわりは樹林帯で、なかなか暗い。やがて一〇段の滝。斜瀑なのでフリクションをきかせて直登する。この上の三段と四段の二つの小滝を直登すると、沢はナメの中心部が深くえぐられた細いトイ状の流れとなった。こうした所には小滝や釜がつきもので、通過には見かけ以上に苦労するものである。この沢もホール



ドが乏しく、体を突つかえ棒のようにしながら移動して越すなど、小滝や釜越えに結構神経を使わされた。このトイ状の流れの部分に今は使われていない農業用水の取水口があった。岩に溝を刻んで水を流すようにしているのだが、今はこの水路もこわれてしまっている。茂庭地域の

農地は比較的高い所に開けていることが多く、農業用水は隣接する沢の上流から延々と水路を引いていることが多い。ここもそうした用水施設の残骸なのだろう。

五段、四段と続く二つの斜瀑を直登すると、細いトイ状の流れも終り、平らなナメとなった。ここからはもう困難な所もない。山菜を探りながらゆっくりつめあげて、最後にはやぶをこいで一〇時二〇分、六三三三等三角点のやや北方の尾根上に出る。尾根にはかすかではあるが踏跡があった。

「タイム」 名号橋(八:一五) ↓ 沢終  
了(一〇:〇〇) ↓ 尾根(一〇:二二)  
(〇)